

ちばけん

障害者社会参加推進センターだより

発行・編集 千葉県障害者社会参加推進センター

第23号

〒260-0026 千葉市中央区千葉港 4-3 千葉県身体障害者福祉協会内
 TEL 043-245-1571・FAX 043-245-1578 E-mail: bcg03245@nifty.com
 http://chibashinsyoukyou.style.coocan.jp/



新型コロナウイルス感染症について（「新しい生活様式」の実践例）

（1）一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
 - 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
 - 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
 - 家に帰ったらまず手や顔を洗う。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

（2）日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに手洗い・手指消毒 咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） 身体的距離の確保
- 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養

（3）日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用 1人または少人数ですいた時間に 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに 混んでいる時間帯は避けて 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも 屋外空間で気持ちよく 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

（出典：千葉県ホームページ）

千葉県障害者文化芸術活動推進計画（案）の概要

計画の概要

1 計画策定の背景・経緯

- (1) 障害者による文化芸術活動の推進に関する法律の施行（平成30年6月）
- (2) 国による障害者文化芸術活動推進基本計画の策定（平成31年3月）

2 目的

障害のある人の文化芸術活動の推進は、社会参加や自立を促進するだけでなく、共生社会の実現に向け、障害のある人への理解を深めるために大変重要

そこで、本県がこれまで行ってきた障害のある人の文化芸術活動の推進に向けた取組を更に発展させていくため計画を策定

3 策定根拠 障害者による文化芸術活動の推進に関する法律第8条第1項

4 計画期間 令和3年度から8年度までの6年間

基本的な方針

1 障害のある人による文化芸術活動の幅広い促進

芸術家を目指す人から日常の楽しみとして行う人まで、いかなる障害のある人でも 地域の様々な場で幼少期から生涯にわたり、多様な文化芸術活動に参加できることが重要

2 障害のある人による芸術上価値が高い作品等の創造に対する支援の強化

新たな価値観や文化創造に寄与する作品・活動も多く生まれており、文化芸術が有する多様な価値を幅広く考慮し、その評価のあり方を固定しないことが重要

3 地域における、障害者芸術を通じた交流の促進による、心豊かに暮らすことのできる住みよい地域社会の実現

地域の様々な領域で、多様な主体が円滑に活動できる環境や関係者の連携体制を整備し、地域に新たな活力を生み出し、障害への理解を深め、誰もがお互いを尊重し合う豊かな地域社会を構築することが重要



公益財団法人 千葉県肢体不自由児協会 「ふれあいサロン」

毎月第3日曜日に開催の「ふれあいサロン」は身体に障がいのある主に20代～30代の方に自由に参加してもらい、たわいもないおしゃべりをしたり、アドバイザーに様々な相談をしたり、ウノや将棋を楽しむ人もいます。11月15日(日)は保健師さんの「新型コロナウイルスを考える～免疫力をUPするには～」というテーマでのお話の後、みなさんの今の現状や不安に思うことなどを話してもらい、アドバイスをいただきました。

午後からは、千葉県手をつなぐ育成会会長の久保田洋一氏にご指導いただき、ボッチャの試合を行い心身共にリフレッシュをはかりました。

家に引きこもりがちな昨今、室内で密にならずにできる運動に参加者はとても楽しそうでした。



参加者 1人ずつ現在の状況と不安や悩みなどを発表しました。



久保田幸子保健師による免疫力アップのための栄養の取り方などのお話し。
みなさんの不安なことにも丁寧に答えてくださいました。



千葉県手をつなぐ育成会会長久保田洋一氏によるボッチャの指導。
学校時代にボッチャは経験済みなのですぐに試合開始。
真剣勝負で盛り上がりました。

バリアフリー視察研修 t o 山梨

社会福祉法人千葉県身体障害者福祉協会

身体障害者の快活な日常生活を支援し、障害者の積極的な社会参加を推進するため、新たな取り組みとしてバリアフリー実地視察研修を実施しました。

山梨県の観光施設や公共施設を巡る1泊2日の視察研修です。参加者の中に、車いすを利用する方もおりリフト付きバスで向かいました。当日は、好天にも恵まれ大変有意義な視察研修になりました。

最初の視察先は、「山梨県立富士湧水の里水族館森の中の水族館」です。

富士山の湧水を利用し、山梨県内の河川や湖沼環境に生きる淡水魚の水族館です。

透明度の高い水槽を泳ぐイトウやニジマス、ヤマメの姿は、まるで空中を飛んでいるかのようでした。2階建ての施設はエレベーターも完備され、通路も緩やかなスロープとなっており、車いす利用者にも優しい造りでした。

次に訪れたのは、「山梨県立リニア見学センター」です。

この施設は、山梨リニア実験線での走行試験の様子を見学したり、超電導リニアやリニア中央新幹線の概要を模型や各種の展示物等により、次世代の高速鉄道と言われる超電導リニアを直接肌で感じ、そのスピードを体感しました。また、隣接する「どきどきリニア館」では、2003年に世界最高速度を記録した試験車両の実物を目の当たりにし超電導リニアの仕組みや原理を体験しながら学びました。見学後は実際に試乗したいと話していた方もいました。この施設もエレベーターが完備され、通路等のスペースも広く障害者も安心して見学できました。

ただ、今回利用した宿泊施設は段差があったり、客室は和室が多くベッドがなかったりトイレが狭かったりするなど障害者への配慮に欠けているなあと感じました。

このほか、昼食の郷土料理や名産品店での買物など旅行気分も満喫し、参加者の交流も深まり、次の機会を期待する声も多く聞かれました。

これらの体験を参考に県内の観光施設や公共施設のバリアフリー化や障害者の積極的な社会参加の推進に役立てるため、この事業は続けていきたいと考えています。

